

ライネルはサクラの太ももを右手で持ち上げ、ディープベロチューをしたままで先刻同様、本気ピストンをくらわせた。

「プシュッ♥プシュッ♥」

さくらのおまんこからはハメションが漏れ、クリトリスも興奮で大きくなっていく。

ケモノのような本気ファック♥

そんな状況を俺は、

「あっ!!あっ!!あへっ!!あ・・・ああ★★!!」

と、叫びながら、目ん玉をひん剥いて、本気ガン見モードで凝視した。

「ぴゅく★★ぴゅく★★」

俺の負け組チンポは、興奮のあまり精液だかガマン汁だかわからない白濁に濁りまくった汁を吹き出していた。

(う!!うら!!うらうら!!うらうらやま!!羨ましいiiii★★★あんなどエロい表情、見たことねえー★★サクラがあ!!寝取られえ★★★!!)

「ブッチュウ～～♥レロレロレロ～～♥」

「パンッ♥パンッ♥パンッ♥パンッ♥」

「あああ～～♥イックう～～♥♥」

「布林♥」「ブッシュウウウ～～♥♥」

「ぬっぷう♥♥」

「おほおお～～♥」

「パンッ♥パンッ♥パンッ♥パンッ♥」

ベロチュー → 高速本気ピストン → 潮噴き → 挿入 → ベロチュー → 高速本気ピストン・・・このルーティンが続いていく。

サクラは何度も昇天させられたようで、アへ顔を晒し、ヨダレを垂らしながらライネルにしがみついてディープベロチューをし続けている。ライネルはサクラのデカ乳を揉みながら、もう一方の手でサクラの太ももを持ち上げて、ディープベロチューをしながら、高速本気ピストンを繰り返している。

既にサクラの足元には潮吹きによって、水たまりが出来上がっていた。

(すげえ～★★なんであんなに激しくピストンできるんだあ～★★★俺ならもう、何度もイッちまってるうう～★★!!ほひいい★★!!興奮するう★羨ましくて★悔しくて★ムチャクチャ興奮するう★★!!もうガマンできねえ～★★!!)

俺はあまりの興奮でパンツ越しに自分で自身のペニスを掴んで 2 人をオカズにシゴいてしまう。

「シコシコ★★!!・・・ドピュ★!ドッピュウ★!ピュ★!ピュ★!ピュ★!」

たったの 2 コキで達してしまう無様な俺。